

日本NIE学会会報

第49号

〔発行所〕日本NIE学会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1 横浜国立大学教育人間科学部 重松克也研究室内

TEL/FAX 045-339-3433 E-mail jssnie2005@gmail.com

日本NIE学会第18回大会のご案内（2次案内）

大会テーマ：新聞活用のこれまでとこれから～コロナ禍で変わる教育と新聞のかたち～

日本NIE学会会長 平石隆敏

大会実行委員長 柳澤伸司

大会の開催に向けて

京都大会実行委員長 柳澤伸司(立命館大学)

2020年から続く新型コロナウイルスのパンデミックは長期化しています。多くの人々がこれまで経験したことのない暮らし方や働き方、人間どうしのコミュニケーションにも変化が生じています。実際、このコロナ禍によって対面（リアル）のコミュニケーションからデジタル機器を通したオンライン・コミュニケーションへと変わり、人々に行動変容をもたらしました。教育現場でもオンライン授業や在宅勤務が続き、これはコロナ禍における一過性の対応で終わるのか、それとも新しい時代における教育のあり方、コミュニケーションのあり方を構築する契機となるのか、わたしたち自身が壮大な実験を経験させられているのかもしれません。

オンライン環境が急速に広がるなかで、GIGAスクール構想*といった新たな動きも出てきました。ICTを活用した学習活動を進めるには、情報環境の整備が求められます。それらはこれまでとは異なるスキル（情報活用能力）を教師にも児童生徒にも求められることとなりました。

ウイルスと闘わなければならないにもかかわらず、ときに不正確な情報（誤情報）の拡散（インフォデミック）によって社会の分断ともいえる「感情的分極化」も顕在化させています。

まさにコロナ禍をめぐる混乱によって改めて私たちのリテラシーが問われているのかもしれません。科学的知見に基づく、溢れる情報のなかから必要な情報や正確な情報を手に入れるリテラシー、教育現場に携わる教師はもちろんのこと、取材する記者にも科学的知識が必要になっています。

本学会は新聞を教育に活用して豊かな学びを創造していく研究と活動を進めてきました。

新聞を活用することがこれからの教育にどのような力となるのか。また、活用する新聞それ自体の社会的役割や機能、またそれらの今日的な変化をどのように捉えて、新聞活用のあり方を探っていけばよいのか。こういった問いを基盤として、新聞活用のこれまでとこれからを本大会では考えていきたいと思えます。

なお、2021年度の京都大会（立命館大学）は新型コロナウイルス感染症をめぐる昨今の状況を考慮し、対面（リアル）開催としてではなく、オンライン開催といたします。オンラインではありますが、多くの方々に参加していただくよう準備を進めてまいります。

* G I G Aスクール構想：Global and Innovation Gateway for All：児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想。

大会要項

主催：日本NIE学会

- 1 期日 2021（令和3）年12月5日（日）
- 2 オンライン（zoom）開催
- 3 参加費 無料
- 4 テーマ 新聞活用のこれまでとこれから～コロナ禍で変わる教育と新聞のかたち～
- 5 日程 12月5日（日） オンライン開催のため、1日開催となります。

9：30	開場
9：40	開会（会長挨拶、開催校挨拶、日本NIE学会研究奨励賞について）
10：00～12：00	自由研究発表 （発表者、発表題目等については学会Webページでお知らせいたします）
12：00～13：30	昼休憩
13：30～15：00	開催校企画シンポジウム* 「コロナ禍の今、『新聞』とどう向き合うか」
15：00～15：30	休憩
15：30～17：00	企画委員会企画プログラム** 「社会の形成者に必要な資質・能力を育むNIE」
17：00	閉会挨拶

*開催校企画シンポジウム 「コロナ禍の今、『新聞』とどう向き合うか」 13：30-15：00

趣旨：シンポジウムではNIE実践の前提として、授業者である教師は、新聞（ジャーナリズム）の役割をどのように捉え、どのように向き合っていけばよいのかという、メタレベルの議論を展開し、これからのNIE実践の基盤形成の一助としたい。

登壇者：石崎立矢氏（新聞報道関係者：京都新聞社メディア局 読者交流センター／京都府NIE推進協議会事務局）、浪田陽子氏（メディアリテラシー研究者：立命館大学）、橋本祥夫氏（NIE実践者／教師教育者：京都文教大学） 指定討論者：根津朝彦氏（ジャーナリズム研究者：立命館大学）
司会（コーディネーター）：角田将士氏（教師教育者：立命館大学）

**企画委員会企画プログラム「社会の形成者に必要な資質・能力を育む NIE」 15:30 – 17:00

趣旨：文部科学省では、昭和 44 年に発出した「高等学校における政治的教養と政治的活動について」（初等中等教育局長通知）を半世紀ぶりに見直し、平成 27 年 10 月に「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」（初等中等教育局長通知 以下「平成 27 年通知」）を発出しました。

平成 27 年通知では、公職選挙法の改正による選挙権年齢の引き下げを踏まえ、習得した知識を活用し、主体的な選択・判断を行い、他者と協働しながら様々な課題を解決していくという国家・社会の形成者としての資質・能力を生徒に育むことを一層期待し、政治的中立性を確保しつつ、現実の具体的な政治的事象を扱うことや、実践的な教育活動を積極的に行うことを明確化するとともに、例えば生徒が自分の意見を持ちながら、異なる意見や対立する意見を整理し、議論を交わすことを通して、自分の意見を批判的に検討し、吟味していくことの重要性を示しています。

こうした学びを実現するために、現実の具体的な政治的事象である「復興五輪」に視点を当てて、その報道の調査を実施し、成果や課題を共有して、社会の形成者に必要な資質・能力を育む NIE の実践や研究の種を蒔きたいと考えております。

< プログラム >

15:30	開会あいさつと企画の趣旨説明（企画委員会委員長 土屋武志）
15:40～16:10	高校生による東京オリンピック「報道」の分析の発表 奈良女子大附属中等教育学校、岡山県立岡山南高校
16:10～16:35	高校生の発表を受けて～報道の立場から、大学生から～ 鈴木賀津彦氏
16:35～16:50	小グループでの自由討論
16:50～17:00	閉会あいさつとまとめ（企画委員会副委員長 野津孝明）

—————【大会開催に向けた前日オンライン講演会とオンラインセミナー】—————【

今回の大会に向けてプレセミナーを 11 月より行います。大会当日だけでなく、ご都合に合わせてご参加ください。

12 月 4 日（土）13：00～14：30 **講演会**（研究委員会・開催校企画）

コロナ下の今、改めて新聞（ジャーナリズム）の役割を問い直す

講師：根津朝彦氏（立命館大学）

趣旨：コロナ禍の中で、政府や地方自治体などが発信する情報等に対して、私たちはこれまで以上に敏感に反応するようになっていきます。社会の現状を把握していくために正確な情報を欠かすことはできませんが、日常の行動が制限される中で、欲しい情報を瞬時に得ることができるインターネットツールは私たちにとってこれまで以上に大きな情報源として機能してきています。そうしたデジタル化の進展に伴って、ニュースは「無料だ」という認識が広まる中、「有料の」「紙の」新聞にどのような価値を見出すことができるのでしょうか。また、新聞報道を担う人たちはどのような社会的責務や役割を果たしていくべきなのでしょう。

本会においては、ジャーナリズム史研究に従事し、報道機関が今日果たすべき社会的責任や役割についての提言（例：朝日新聞 2021.3.12「メディア私評」）を行っていた根津朝彦氏を招聘し、

新聞（ジャーナリズム）の役割を問い直すことで、翌日（12月5日）の大会シンポジウムの議論につなぎたいと考えています。

オンラインセミナー（研究委員会企画）

① 11月6日（土）14：00～16：00

美術教育における新聞活用の効果と可能性～「見る」「読む」から「表現」へ～

講師：菊永真美氏（大阪府立登美丘高校 美術科教諭、日本NIE学会会員）

趣旨：講師である菊永さんは高等学校の美術科教育で20年以上にわたりNIE実践者としてユニークな取り組みを続けています。「社会の動きと美術とは関係性が極めて強く、新聞から感じとり、考えたことを表現につなげることに意味がある」として「時代を切り取るスクラッチボード」等新聞を活用したさまざまな授業を重ねてきています。ここで紹介されるNIE実践は各教科領域、校種を越えて先進的なものではありませんが、たくさんのヒントが得られるのではないのでしょうか。コロナ禍にあっても、「今」と向き合い「表現」された事例は、「なぜ新聞を活用するのか」というNIEの意義についても多くのことを問いかけます。

「身近な生活の中から自ら感じ取ったことや考えたことを追求し深めていくことの大切さ」を豊かな実践から学び、新聞活用のこれからについて考えてみたいと思います。

② 11月21日（日）13：30～15：30

NIEの「学び」を考える～大正新教育の「自学」論をもとに～

講師：富士原紀絵氏（お茶の水女子大学、日本NIE学会会員）

趣旨：大正新教育の教育方法の変革の主張のメインは「自学」の導入でした。学校教育の中心が教師の教授・指導から、子どもの学習・学びへの転換によって「自学」が結果的に教師の負担を減らすこととなります。

NIEの最終形態は学習者自身が自ら新聞学習をすることにあり、カリキュラム・オーバーロードとして学習負担が問題視されている現代からみても、大正新教育における子どもの学習指導の質の転換の発想から学ぶことがあります。大正期の試みをもとに学習者自身が主体的に新聞学習に取り組んでいく展望を考えたいと思います。

③ 11月28日（日）13：30～16：00

「新聞博物館」のNIE～ICT時代における博物館活用の可能性～

講師：今村浩氏（熊本日日新聞社 編集局 読者・新聞学習センターNIE専門委員、日本NIE学会会員）、尾高泉氏（ニュースパーク（日本新聞博物館館長、日本新聞協会博物館事業部長、日本NIE学会会員）

趣旨：熊本日日新聞社の新聞博物館は、全国初の新聞博物館として1987年にオープンしました。当初からNIEの情報発信拠点を目指してきましたが、来館者の減少や高齢化、コロナ禍、限られたスタッフや予算による運営など克服すべき課題は少なくありません。こうした中、教育現場や家庭で進むICTにどのように対応していくのか。具体的には、山間部の学校や、新型コロナで一斉休校となり在宅生活を余儀なくされた小中学生を対象に、新聞博物館をオンラインで結んだ特別授業、百年前のスペイン風邪以降、現在に至るまでの感染症報道や今年の熊本豪雨をテ-

マにした企画展の展示物を、ウェブサイト上でデジタル保存・公開する試みを始めました。熊本県博物館ネットワークと連携することで、博物館の常設展の模様をグーグルマップのストリートビューで紹介する取り組みについてもお話しします。

ニュースパーク（日本新聞博物館）は「情報と新聞」の博物館として、歴史と現代の両面から、たしかかな情報を見極める力の大切さと新聞・ジャーナリズムの役割を伝えています。社会教育施設として、当館がどのように地域や教育界との連携を強化しているか、学校図書館との連携、デジタル時代の情報リテラシー教育の取り組みを含めてお話しします。

(1) 自由研究発表（10：00～12：00）について

本年度の自由研究発表会はオンライン（zoom ライブ）開催とします。ブレイクアウトルームを活用して複数の部屋を用意します。

① 発表について

発表方法：双方向型の交流（リモートでのオンライン口頭発表）形式とし対面発表と同じく20分、質疑応答10分で行います。発表資格は日本NIE学会会員であること（共同発表の場合も、発表者全員が会員であること）とします。

② 発表申込方法

日本NIE学会 Web ページ(<https://jssnie.jp>)での「2021 年度大会発表申込み」にアクセスして、「日本NIE学会第18回京都大会 自由研究発表申込書」文書（word 形式）をダウンロードして下さい。必要事項をご記入の上、E-mail で添付ファイルとして、以下の送信先（大会事務局）まで送信ください。

発表申込みを確認次第、大会実行委員会事務局から受付確認等をお知らせします。

発表者、発表題目等については学会 Web ページ等にてお知らせします（11月7日予定）。

本年度は発表要旨集を作成いたしません。発表者の発表要旨を日本NIE学会 Web ページで公開いたします。

③ 「発表申込書」の送信（送付）先

日本NIE学会第18回京都大会事務局

立命館大学 柳澤伸司 E-mail: syt01970@ss.ritsumei.ac.jp

④ 発表申込の締切 申込み期間は2021年9月15日から10月16日〔必着〕まで

申込み書類や発表資格等の申込み内容を確認した時点で、E-mail で受付完了の通知を送信いたします。

⑤ 発表時に新聞記事（紙面）を使用する際の注意点

発表の際に、新聞記事（紙面）を使用する予定の方は、本大会で発表のため仕様する旨、予め当該の新聞社にご自身で発表資料（記事名・日にち）の使用許諾をおとりください。その許諾を受けないまま新聞記事（紙面）を示す発表はできませんので、必ず事前に使用許諾をおとりください。

当該の新聞社より新聞記事利用許可の連絡を受け取られましたら、許可書と発表資料（使用する予定の記事）を発表2週間前までに大会事務局までお送りください。その整合性を事務局にて確認いたしましたら発表者へ確認のご連絡をいたします。

発表で提示する新聞記事は許可されたもののみとし、変更しないようにしてください。

<手続きの流れ>

- 1 新聞記事の使用許諾は発表者本人が行ってください。

- 2 記事使用申請の許可書と発表資料とを2週間前までに事務局に提出してください。
- 3 大会実行委員会がその整合性を確認し、発表者へ確認できた旨を連絡いたします。
提示する新聞記事の記載事項（発表当日の資料）は変更しないこと。

(2) 大会、オンラインセミナー参加申し込みについて

① 参加申込方法（Webでの申込みのみ）

参加申込 2021年10月16日（土）から受け付けます。日本NIE学会 Web ページ（<https://jssnie.jp>）にある「日本NIE学会第18回京都大会 オンラインセミナー・大会参加申し込みフォーム」にアクセスするか下記のURLからアクセスしてお申し込みください。11月に開催されるセミナー、講演会に参加希望の方は早め（前日まで）にお申し込みください。

大会（12月5日開催）の参加申込みの最終締切は2021年11月28日（日）までとなります（申込み受け付け次第、イベント開始までに参加URLをお知らせします）。

（右のQRコードまたは下記アドレスからも申込みできます）

<https://forms.gle/YycALFEs6AnxwrrY9>

申込みフォームに入力（手続き）したのに参加URLが届かないなどの事態が発生した（申込みメールアドレスに記入間違いなどの）場合には、下記のアドレスまでご連絡ください。

日本NIE学会第18回京都大会事務局

立命館大学 柳澤伸司 E-mail: syt01970@ss.ritsumeai.ac.jp



② オンライン（zoom）での参加が困難な会員のみなさま

大会の開催が1日（日曜日）となり、ネット対応が難しい方もおられると思います。大会の様子につきましては会報などでご報告いたします。

(3) zoomの接続方法

①準備する物：zoomが使用できるPC・iPad（タブレット）などのデバイス

② zoomに接続する場合は、次のURLよりあらかじめzoomをダウンロードしてください。

<https://zoom.us/download>

タブレットやスマホでも接続できますし、最近のパソコンであればカメラ、マイクはついていますが、できるだけ事前にテスト（下記）をしておかれることをお勧めします。

③事前の接続テスト <https://zoom.us/test>

「参加」を押すと、ひとりでも接続のテストができます。